



価格より価値で勝負する人々 日本カタクナ道場



タケヒロ君 三重県菟野町にて伊勢ごろた & 伊勢砂利を学ぶ

伊勢ごろた石 & 伊勢砂利道場 in 三重県



日本には商品の価格より、価値を大切に^{かたく}して物づくりをしている人がいます。

便利になった世の中で^{かたく}楽をせず古くから続く材料や技法を頑なに守ることが当たり前だと考えている人がいます。

このように頑^{かたく}々な物づくりをしている人をタケヒロ産業は敬意を表して「カタクナ職人」と呼ぶこととしました。

タケヒロ産業は「カタクナ職人」が製造する製品や材料の販売促進をサポートすることで、後世に職人技術を残すお手伝いをしていきます。素晴らしい物は作り手が残すのではなく、製品を使い、その良さを分かってくれる人が増えることで残っていくのだと考えています。カタクナ道場をきっかけに一人でも多くの方がこだわりの製品や材料に興味を持っていただければ幸いです。



第4回カタクナ道場は三重県菟野町にて伊勢ごろた石について「カタクナ職人」に憧れるタケヒロ君と学んできました。伊勢ごろた石は花崗岩の一種で、繊細な石粒の結晶が特徴です。独特の丸みと主張しすぎない色合いは庭のアクセントには欠かせないアイテムで、昔から庭師さんに好んで使われてきました。また伊勢砂利は多孔質で水持ちと水はけが良いのでガーデン資材で人気が出てきています。この庭園資材の定番中の定番の伊勢ごろたと伊勢砂利を製造している現場に伺い、製造している職人さんからお話を聞いてきました。

Q1. 伊勢ごろた & 伊勢砂利の歴史を教えてください



三重県の菰野町には石工が多く暮らしていました。私たちの住んでいる村はその中でも歴史が古くて鎌倉時代から石に携わる仕事をしていました。



えー！鎌倉時代。歴史ありますね。その頃から玉砂利を売っていたのですか？



玉砂利はずいぶん後になってからです。昔は灯籠などを売る普通の石工でした。昭和に入ってから住宅にも日本庭園を作るようになってきて、玉砂利が売れるようになったのです。その頃は近所の朝明川で丸い石を拾ってきて販売していたのですが、昭和40年頃にできた河川法で川の石を勝手にとれなくなってしまいました。今では山で採掘した石を機械で角をおとして丸く加工して販売しております。



時代の流れで仕事が変わるんですね。



コンクリート建築が増えてくると割ぐり石として使われたり、四日市港の波消しブロックに使ってもらったりしています。いろいろな活用を考えながら、今の伊勢ごろたとして形ができてきました。

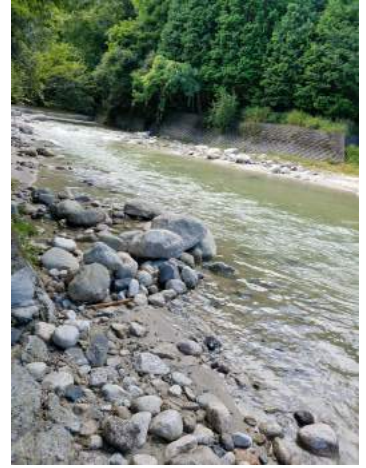


伊勢ごろたとして全国に知れわたったきっかけってあるのですか？

実は自分達で名前を作ったわけじゃないのですよ。東京で石を売っている業者が商品をわかりやすく伝えるために「伊勢砂利」として販売していたのです。それが石を使う人の間で当たり前の名前になっただけなのです。日本庭園を住宅につくるようになると庭園資材としてごろた石のニーズがでてきました。ごろた石を売るときも「伊勢」の名前が普通についているのです。



そんな理由で伊勢ごろたがブランドになっていたとは意外でした。



昔は川の石を集めていた



砕石現場で話を聞かせていただく



川沿いの山の中に砕石場があった



重機を使う現場は大迫力



材料は常に確保されていた

Q2. ごろた石はどこで採取しているんですか？



まずは朝明川でごろごろしている石と同じ種類の石を近所の山から採石してきます。その石をふるいにかけてながら、製品にならないような小さすぎる石を取り除きます。



大型重機を使った豪快な作業ですね。それにしても回りを見ると石を集めた山がたくさんありますね。



どんな注文が来ても大丈夫のように、常に在庫を多目に確保するように心がけています。石を山積みしておけば、迅速に対応できるのでお客さんに迷惑かからないですからね。10年分くらいの在庫は確保してあるので、いつでも声かけてくださいね。



もちろんです！

Q3. ごろた石を作る過程を見せてもらえますか？



まるで映画のロケ地のような工場
水を大量に使って製品化していました



この大きなドラムで石を丸くする



最後は人の目でチェック



サイズ別に仕分けしていました



まずは先程大雑把に大きさを仕分けした原料を別の工場に運びます。ここで何度も水で洗いながら機械を通していきます。大きな石を「伊勢ごろた」用として細かな石を「伊勢砂利」用として分けていきます。



映画「ウォーター ワールド」みたいな工場ですね。石を作る行程でこんなに水を使っているとは思いませんでしたよ。

なるべく綺麗な状態の石をお客さんに提供したいですから、水洗いは手を抜きませんね。



大きな石はこの大きなドラムにいれて回転させると石の角がとれるんですよ。ただ24時間かかりますけどね。できあがった伊勢ごろたを一か所にあつめておきます。そして、1つ1つ人の目で割っていないかチェックしてから、人力で袋につめて製品化しています。



やっぱり最後は人がやるのですよね。細かく寸法を指定しても答えてくれるのは、職人さんの手仕事が入っていたからなのですね。ここを見学させてもらうまで、石のことを正直なめていました。丸くするだけだから簡単だろうなあって。



確かに丸くするだけだったら簡単な作業です。私たちはなるべく自然に近い形状の石を作ることが本当の仕事だと思っています。長い間かけて上流から下流へ流されることでいびつな形になってきたのが自然のごろた石です。その状況を人の手で製作するのだから、試行錯誤の連続でした。今では材料をみれば、どれだけの時間でいい状態のごろた石になるわかるようになりました。



本当に丁寧な仕事をされています。その結果「伊勢ごろた」や「伊勢砂利」というブランドになっていったのがわかりました。それにしても、伊勢ごろたをつくる所を見せていただいたのですが、廃棄物がでないですね。



そこは我々も自慢ができますね。山でとってきた石は捨てるものが何一つありません。昔ながらの仕事の良さですよ。

Q4. 未来の伊勢ごろたについてお聞かせください



以前は石材組合に加盟していた同業者が50～60社あったのですが、今では2社になってしまいました。自然が相手ですので、出荷量を増やすために手広くやろうとは思っていません。量より質を大切にしていきたいと考えています。



確かにそうですね。本当は僕らのような石を取り扱う人間がお客さんに伊勢ごろたの良さをPRしてファンになってもらうような活動をしなければいけないですよ。伝統を残すのって、製品を消費者が使い続けてくれるから残るのですからね。今回も本当に勉強になりました。ありがとうございました。



タケヒロ産業が自信をもっておすすめする

カククナ製品

伊勢砂利



各サイズ取り揃えています

20kg入り 2分・3分・5分・8分
フレコン入り（約1t）も対応しております。

伊勢五郎太



各サイズ取り揃えています

20kg入り 1寸・1.5寸・2寸・3~4寸・5~6寸
フレコン入り（約1t）も対応しております。

伊勢御影石で作った石製品も取り扱っています。



山灯籠



つくばい



お気軽に問合せください。



造園緑化総合資材
株式会社タケヒロ産業

愛知県額田郡幸田町坂崎東鳴沢 15-1

Tel:0564-63-1212

<http://www.e-takehiro.co.jp>

